

倫友対談 一語一会

「人は鏡、万象はわが師(万象我師)」



倫友同士のとっておきの会話をお届けする「一語一会」。毎回、万人幸福の栞十七箇条から一語を選び、それをテーマに語り合っています。新年号ということで、白山市倫理法人会 会員、白山比咩神社 村山和臣宮司と、金沢市みなと準倫理法人会 専任幹事の高橋玲子氏に日本人の心について語っていただきました。

自然への畏敬の念

高橋 ● 石川県民で白山さん知らない方はまずいらっやらないと思うのですが「じゃあ白山さんってどんな神社？」と聞かれると上手く説明できないんですね。今日は、宮司さんとお会いできるということで、その辺りからじっくりとお話を伺いたいと、楽しみにして参りました。よろしくお願いたします。

村山 ● お手柔らかに(笑)。では、はじめに神様のお話からしましょうか。昔の人は、大きな木や、岩、そして山に神様が降りてくると考えていたんですね。降りてくる依り代を神籬(ひもろぎ)、磐座(いわくら)、磐境(いわさか)と言いました。それで、麓から白山を仰ぎつつ、手を合わせ

ていたんですね。そういう場所を、遥拝所というのですが、今から2100年前、ここから2キロほど離れた船岡山に遥拝所を設け、神様を祀ったのが当社のはじまりです。

高橋 ● 2100年前というと、紀元前ですね。何時代? 弥生時代ですか、すごい歴史。

村山 ● はじめは、麓からお参りしていたわけですが、養老元年(717年)越前の僧、泰澄がはじめて白山に登られまして、それから修験道の信仰の山になったわけなんです。修験道の山は女人禁制ですから、明治5年に修験禁止令が出され、女人禁制が解かれるまで女性の登山は禁止でした。今でこそ、国立公園の白山としてどなたでも登っていただけますが。

高橋 ● ところで、よく石川県は自然災害が少ないといいま

すよね。夏から秋にかけての台風なども、白山が屏風のようになって私達を守ってくれているのを感じます。白山のお陰だと思って感謝しています。

村山 ● 石川県から見るとそうかも知れませんが、反対側の岐阜県や、福井県からではどうなんでしょうか。陰日向ですね。

高橋 ● 山は、水の源でもありますよね。手取川流域の白山水系も白山の恩恵ですよね。先ほど、白山比咩神社のはじまりが弥生時代だというお話でしたが、稲作とも関係しているのかもしれないね。

村山 ● それもあるでしょうね。人間、動物、植物、生きとし生けるもの全ては、太陽の恵みと空気と、水によって生かされている。その反面、ひとたび川が氾濫すると人の命を奪ってしまう。昔の人は、台風や地震、洪水のような自然災害が起こると、神様の心が荒んだのだと考えたようです。自然の表れというものを神としてお祀りされたのが神社なんです。

高橋 ● 感謝と畏怖ですね。

禊によって新しいものが生まれる

村山 ● 洪水というのは、1つの禊いなんです。民俗学者 折口信夫さんによると禊いには、汚れを洗い流すという意味と、もう一つ、新しいものが産まれるという意味があるそうです。古事記、日本書紀に出てくるイザナミの神・イザナギの神のお話はご存じですか？

高橋 ● 古事記は非常に興味がありますね。イザナミ・イザナギの神というと、国をお作りになった神様ですね。

村山 ● イザナギの神が黄泉の国からお戻りになって、禊をした時に、左目からアマテラスオ

オミカミが、右目からツクヨミノミコト、鼻をすすぐとササノノミコトの三貴神がお産まれになった、と書いてあるんですね。

高橋 ● なるほど、汚れを祓う禊のあとに、尊い神様がお産まれになったんですね。



お仕事を通して、みなさんに愛されたい。そう思いながらも、手探りで取り組んできました。講話をさせていただいた時に、私の考えを認めていただいたと初めて実感でき、自信ができました。モーニングセミナーに参加するたびに、心の栄養シャワーが細胞にしみ込んでいるのを実感しています。

金沢市みなと準倫理法人会 専任幹事
アルソア静岡 サロンオーナー

高橋 玲子氏

村山 ● そう。話は少しそれますが、イザナギ・イザナミ夫婦の神は多くの神々を産みましたが火の神を出産した時の火傷が原因で女神イザナミの神は亡くなってしまいます。残されたイザナギの神はイザナミの神を探して黄泉の国へ赴くのですが、イザナミの神の変わり果てた姿を見て、おのき逃げてしまうわけです。ところが追ってきたイザナミの神に追いつかれます。「私が悲しみ慕ったのは、私が弱かったからだ」とイザナギの神がおっしゃると、「一緒には帰れません」とイザナミの神。ついには口論になります。そこに現れたのが当社の主祭神、ククリヒメの神です。ククリヒメの神が何かを言うといザナギの神は、ほめて帰ったとあります。何を言ったかは書いていない。菊理と書いて「くくり」と読みますが、括るの意味からきています。

高橋 ● 都市伝説かもしれませんが、白山比咩神社のご祭神は女性なので、カップルで参拝すると嫉妬するという話を聞いたことがあります。括るだと逆に縁結びの神様ということになりますよね。

村山 ● 「山水に得失なし、得失は人心にあり」

というでしょ。焼もちを妬くのは神様ではなく、自分、つまり人間の勝手な思いを神様に投影しているだけです。純粋な方は、縁結びの神様だと信じているはずですよ(笑)。

それからもう一つ「くくる」には潜るという意味があると言われてます。水に潜るつまり禊のことだと。黄泉の国から帰って来たら蘇りというのですが、黄泉の国は地下にあります。大地は母、天は父だとすると、蘇りは母なる大地から、水に潜ってそして地上に再生するというわけです。

高橋 ● 出産みたいですね。お母さんの体内から羊水を潜って誕生する。ククリヒメの神は、イザナギの神に禊を勧められたのかもしれないね。禊といえば、こちらに禊場があると伺ったのですが。

村山 ● ええ、2100年祭を記念して禊場を作りました。禊の会を作りましたので、一般の方も年4回ご参加できます。女性の方も参加されていますよ。

高橋 ● 私も、一度だけ禊を体験したことがあります。そちらの方のお話しですと、女性は滝に打たれている時も心を開いて、自然と一体となるように感じるようで、二度、三度と受けられる方が多いそうですが、男性は二度と経験したくないとおっしゃるそうです。

村山 ● 禊って不思議ですね。やるとスッキリするし、考え方がガラッと変わるでしょ。

自然と共にあった日本人の暮らし

村山 ● 禊も、以前は手取川でやっていました。**高橋** ● 私が体験したところも、人工の滝でした。自然の滝は流木なども流れて来て危険なんですって。

村山 ● 昔、日本人の暮らしは自然と共にあったのですが、文明が発展してどんどん自然から遠ざかってしまいました。江戸から明治に変わった時、修験道の廃止、神仏分離令などずいぶん強引なことをやりましたね。

暦が旧暦から新暦に変わったのも大きかった。神様や仏様のご縁日は、旧暦でないのだめですね。八幡様のお祭りも9月15日に行われていますが、あれは月遅れの行事ですから本当は旧暦の8月15日、中秋の名月の日の行事なんです。

旧暦にはお正月も2つありましてね。1つは立春。つまり冬が明け、春が始まる日を1年の節目としたわけです。もう一つ神様のお正月があるのですが、それが冬至です。



白山比咩神社境内に設置された禊場での禊の様子。

高橋 ● 一番夜が長く、昼が短い日ですね。

村山 ● 次の日から昼が長く、明るくなってくる。だから新しい年が明けるとい意味です。古来の宮中では冬至の夜から夜明けまで、夜神楽をやりました。天の岩戸開きと一緒にですよ。真っ暗なところから明けるんです。今も皇居では、日が変わるまで神楽をやるそうです。

高橋 ● 便利になればなるほど、逆に退化している気がしますね。

村山 ● 自然界の摂理があって、それが判らないのは人間だけ。

高橋 ● 私の会社の理念は「人と自然との調和の中に」なんです。取り扱っている化粧品ブランドが出来たのが41年前なのですが、ちょうど日本で公害問題が深刻になってきた時でした。そんな時に自然のことを考えようという思いから生まれたブランドなんです。原料はバクテリアが分解できるものしか使わない。パッケージなどもできるだけ簡素に。私達の自然や環境に対する考えを多くの方に届けたいという思いでお仕事をさせていただいています。お客様にもよくお話するのですが、自然災害は、私達の環境破壊の見返りではないかと。

村山 ● 我々も自然の中の単なる一部でしかない。しかし、五感だけに頼って暮らしていると、ついそのことを忘れがちになってしまいます。ありのままに自然を受け入れるためには自然に入り、心という第六感を磨く必要があります。



初詣などをお願いごとをお祈りされている方がいらっしゃいますが、祈るは、上代の意志を示す接頭語「い」に宣言するという意味の「宣る」が合わさった言葉なんです。今日もこうして生きていられることに感謝して、神様に誓いを立てるのが正しいお祈りの仕方です。

白山市倫理法人会 会員
白山比咩神社 宮司

むらやま かずおみ

村山 和臣氏



高橋 ● 自然と共に暮らし、自然から学ぶ。十七箇条の「人は鏡、万象はわが師」ですね。

鏡は「彼・我・見」

村山 ● そう、みんな鏡なんです。神社にも鏡がありますが、鏡ってね、「彼」^{かなた}方の「我」を「見」るものだから「かがみ」と呼ぶのですよ。鏡があるから、自分の顔が見られる。肉眼では自分の顔は見られないですよ。

高橋 ● なるほど。

村山 ● 「奉仕をしているのに、何も返してくれない」という方が、時々いらっしゃいますが、それは自分の鏡が曇っているんです。そうではなくて、自分以外の物はすべて師であり、我を見て答えてくれる神様なんです。

高橋 ● 何かを判断する時、損得で動くと必ず失敗します。相手が得をする方を選ぶと上手くいきますね。いかに相手に喜んでいただくか。私自身、倫理に入った根本的な理由はそこなんです。

お客様は商品ではなく人に付きます。当社にも販売員がたくさんいますが、お客様のことを考えて接するようにと指導しています。その気持ちが伝われば、必ず信頼され「あなたから買いたいんだ」と言ってもらえるのだと。そう言っている自分が、まず成長しなければ説得力がないですから。

村山 ● 「かけた情けは水に流せ 受けた恩は石に刻め」ですね。

高橋 ● 大好きな言葉です。私、年に何度か仲間と一緒に、会社近くの公共トイレを掃除しているんです。素手で便器に手を入れて一生懸命きれいに磨き上げてるんです。

村山 ● ほう、トイレ掃除ですか。

高橋 ● トイレほど汚れているところはないで

しょ。そこを掃除させていただくことで自分が謙虚な気持ちになれるんですね。

村山 ● そこなんです。トイレをきれいにするというのは物理的なこと。他所のトイレを磨くことで自分の心を磨いているんです。掃除の「掃」は「はらう」と読みますよね。先ほどの「拭」^{はす}に通じるでしょ。

高橋 ● そうなんです。それで切りがないんですよ。仕事と一緒に。集中して磨いていると、とことんきれいにしなくなって工夫や、知恵がでてくる。納得できるまで手を抜かずに取り組めるかどうかが重要なんです。町内の方にも参加していただいているのですが、中には親子で参加してくださる方もいます。最初は便器も触れなかったお子さんが、きれいになると自分の物のように感じてくれて「今度から公共のトイレをきれいに使おう」と言ってくれたりするんです。

村山 ● それはいい勉強になりますね。生きるというのは、まず自分を知ることですよ。人が喜ぶようなことをして、その喜びを自分の物にする。

高橋 ● 恩送りですね。

村山 ● 私は、倫理法人会は、良いところを映し出してくれる鏡だと思っています。人は、他人の悪いところはいくつも見つけられますが、良いところはなかなか見つけられないものです。ところが、倫理法人会のモーニングセミナーに来られている方は、その逆。いいところを見てくれてほめてくださる。お話していると自分が見えてくるし、成長できる。倫理は人の道、モーニングセミナーはそれに気づかせてくれる、朝の洋服ですね。

高橋 ● 素晴らしい、キャッチコピーですね(笑)。今日は、本当にありがとうございました。

2014年 石川県倫理法人会 新春顔見せ新年会 実践を通して、石川県を元気に！



去る1月10日、ANAクラウンプラザホテル金沢において、歴代の県会長、役員はじめ230余名の会員が集い、2014年石川県倫理法人会新春顔見せ会が開催された。オープニングでは、西澤和江さんによるバイオリン演奏が披露されたほか、マジックショーやサプライズゲストによるバンド演奏など、趣向を凝らした演出に、参加者は時の経つのを忘れて楽しんだ。

主催した中野宏一 県会長は「2020年開催予定の東京オリンピックは、これから元気になっていく日本のシンボルです。我々経営者も、社員が元気になるような、夢のある目標を示していかなければなりません。倫理法人会の活動を、石川県の元気につなげていきましょう」と新年の抱負を語った。



会 員 紹 介

能登・金沢・加賀の3つのエリアから毎号4名の会員をご紹介します。

加賀エリア



白山市倫理法人会 会員
こんせい みちこ
紺清 美千子さん
スカイ獅子吼 & パーク獅子吼 総支配人

人生という名の演劇で、主演女優賞を獲りたい

私には夢があります。大好きな獅子吼をもっとたくさんの人に知ってもらうことです。当社がある旧鶴来町は、霊峰白山の気にも包まれたパワースポット。豊かな水源に恵まれ、酒・味噌・醤油・酢の四醸造もそうなど、これほど健康に適した場所はありません。ここに石川県初の「健康の駅」を作り、たくさんの方に来ていただき、健康になってもらいたいですね。「人生は神の演劇、その主役は己自身である」。十七箇条で一番好きな言葉です。振り返ると、私のこれまでの人生はまるでドラマのようでした。楽しかった少女時代、一度目の結婚生活、がんとの闘病、二度目の結婚と死別…。さしずめ今は第5幕、夢の実現といったところです。よく家族に、神劇の主演女優賞を獲得したいと冗談ぽく言っていますが、本人は大真面目なんですよ。

金沢エリア



石川県倫理法人会 副幹事長
みずの まさお
水野 雅男さん
法政大学 教授

カウントダウンメールで学生の卒論制作に伴走中！

今の大学に移って3年になります。初めて受け持った学生がいよいよ卒論に取り組む時期。ところが、私の思いが通じないのか、なかなかやる気になってくれない。そんな時、先日達成した100日実践のことを思い出しました。連幹事長に毎日一回必ず気付いたことを連絡すると決め実践したところ、次第に思いが通じ合える強い絆ができました。そこで、学生のやる気を刺激するために、締め切り日までのカウントダウンメールを送ることを思いつきました。メールでは、学生をせつづくのではなく、自分が先延ばしにしてきた論文制作の進捗状況を書いています。メールを始めてから学生の姿勢も徐々に変わってきました。2月14日にレストランを借り切って発表会を企画しているのですが、今から楽しみです。

能登エリア



奥能登倫理法人会 専任幹事
いちま こうせい
市濱 光晴さん
有限会社アーキコミュニケーションズ
代表取締役社長

プロセスにドラマが見える

会社周辺の清掃を100日実践達成しました。最初はきれいになっていくのが楽しくて一生懸命なのですが、毎日続けているうちに変化が現れなくなり、やる気が萎えてしまいました。「これではダメだ」と気持ちを入れ替え、掃除という行為自体を楽しむことにしました。これは、仕事にも言えることですが、結果を求めて仕事をするのではなく、毎日の仕事の積み重ねの先に、結果がついてくるのだ気がしました。「もの作りは、物語だ」と言っていた父の真意が分かった気がしました。リフォームの結果、きれいになるのは当たり前のこと。その過程に、苦労したこと、悩んだこと、お客様に喜んでいただいたことなど、関わった方々の喜怒哀楽がドラマのように見える仕事をしていけたらと思っています。

金沢エリア



金沢市北倫理法人会 幹事
にしな そとえ
西科 外栄さん
家庭料理 つぼみ

倫理法人会は卒業のない学校です

かねてから勉強したいという気持ちは持ち続けていたのですが、ひとりで勉強するというのはなかなか大変です。仕事で疲れたと言っては、つい先延ばしに。活字を読むのもだんだん辛くなってきました。しかし、倫理法人会に入ってから、毎週のMSでの出会いがよい勉強になっています。家庭の事情で、中学校までしか行けなかった私にとって、倫理法人会は卒業のない学校です。「夢かぎりなく」という校歌斉唱もあり、輪読もあります。夜が遅い仕事なので、早起きは正直大変なのですが、中学生だった頃を思い出し、毎日いろんなMS会場へ「登校」しています。一時はなかなか倫理に染まりきれなくて悩みましたが、仲間のお励みの声に支えられながらこうして続けて来られました。ここで死ぬまで勉強させていただこうと思っています。

